



所在地 〒552-0014 港区八幡屋3丁目3番5号

TEL 06-6571-0013

FAX 06-6572-2482

校長名 井原 高志 (いはら たかし)



学校の紹介・校長メッセージ

八幡屋小学校では、教育の目標は、「3つの自立を促し、確立させることである」と考え、様々な取り組みを進めています。3つの自立とは、「学習の自立」「生活の自立」「生き方の自立」です。

「学習の自立」では、学習を行う上で、決して受動的ではなく、自発的に主体的に学んでいく姿勢を育てたいと考えています。「生活の自立」では、基本的な生活習慣の確立を

始め、規範意識の醸成や食に対する意識の向上など、自己管理し、計画的に生活できる力を育てます。そして、「生き方の自立」では、将来の夢や希望を叶えるための力を育成し、主体的に肯定的に自己を捉え、自己実現が図れるよう取り組みを進めます。

これらの目標をもとに【めざす子ども像】と【学校の教育目標】を以下のように設定しています。

めざす子ども像

しんの強い子

学校教育目標

～知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな実践力のある子どもを育てる～

- ★★★ 様々な体験活動を通して学習意欲を高める。
- ★★★ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成に努め、自己肯定感を育む。
- ★★★ 体力の保持増進を図り、健康で安全な生活習慣を身に付ける。

以上の教育目標のもと、特色ある教育活動の一つとして体験学習を重視し、芸術鑑賞、ゲストティーチャーによる出前授業、1人1台端末の活用による個別最適な学び、広島への修学旅行による平和学習等に取り組んでいます。

※校舎増築の計画があります。工事期間中は、運動場や校舎が狭いなど、教育活動に一部制限がかかりますが、学校として最大限の教育に努めてまいります。

運営に関する計画

【安全・安心な教育の推進】

(小学校学力経年調査における)

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を100%にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(小学校学力経年調査における)

- 算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。

- 「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

大阪府教育委員会では、調査対象学年が単学級の学校の校長は、調査結果を公表しないことができるものとしており、本校では平均正答率を含む調査結果は公表しない。
[国語] 前年度の結果と比較すると、全国の平均正答率との差は小さくなった。また、平均無解答率も向上している。領域では「書く」「言葉の特徴」で学力の向上が見られ、学校全体で取り組んでいる漢字学習や漢字検定に向けた学習の効果が現れた。「話す・聞く」「読む」では学力の向上が見られず、音読や読書についての取り組みをすすめているが効果としては十分表れてはいない。
[算数] 前年度の結果と比較すると、全国の平均正答率との差は縮まっていない。また、平均無解答率も同様である。領域では「変化と関係」で大きく学力の向上が見られ、すべての単元で取り組んでいる習熟度別少人数指導で個々が考えて解答を導く機会を大切にできた効果が見られたが、「図形」「データの活用」では学力の向上が見られなかった。
「学力向上支援チーム事業」「各ブロック学力推進事業の実施」

で算数を中心に研究・授業改善・個別指導をすすめている。
[児童質問紙]「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目において最も肯定的な回答をする児童の割合は大阪府・全国の平均値より高くなっている。日々の教育活動において、児童の思いを大切にし、一人ひとりが自己実現できるような取り組みを推進した成果が見られる。それは、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目や「学校に行くのは楽しい」の項目での最も肯定的な回答をする児童の割合からもうかがえる。

より分かりやすい授業を目指すとともに、自分の考えをもって主体的に学びをすすめる活動を引き続き行いたい。今後も、学力の定着を目指した放課後学習の実施、文章問題の読解力を高めるために全学年で読解力ワークブックの実施、児童が主体的に文章問題にチャレンジする「算数アタック」の実施など、個々の児童の課題を解決するような取り組みを日々重ねていく。

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった現状

大阪府教育委員会では、調査対象学年が単学級の学校の校長は、調査結果を公表しないことができるものとしており、本校では調査結果は公表しない。
体育の授業やキッズタイム(たてわり遊び)で様々な運動や遊びを経験する機会を設定するとともに、「なわとびタイム」「かけ足タイム」などの強化月間・週間により、楽しく体を動かす習慣をつけ、体力・運動能力を高めることができるよう取り組んできた。そのため、全国・大阪府平均との差は縮まってきており、平均を上回る結果も出ている。しかし「反復横とび」や「立ち幅とび」の平均点が本年度も全国・大阪府平均より下回り、記録は良くなかった。素早さやタイミングの分野での運動能力の向上が課題である。「50m走」「ソフトボール

投げ」「握力」については差が縮まり、記録は全国・大阪府平均より高い。

令和3年度から年に2回新体力テストを実施して、個人の記録を活用し、目標を持たせることで、児童の体力向上への意欲を高めながら体を動かす楽しさを体験することができるようになってきた。また、コロナ禍で縮小されていた小中合同駅伝大会、部活動体験等の体験授業やトップアスリート招へい事業等の体育的行事も再開している。今後も、全国・大阪府平均より「体力合計点」が上回るように、体育の授業時間に限らず、小体連による放課後のスポーツ活動との連携や、子どもの体力向上支援事業(シナプソロジー)など、多様な取組の工夫を継続して行い、運動能力、体力の向上を目指していく。

様々な学校行事と体験的な学習

八幡屋小学校では、体験することや経験することが児童の「学び」への興味・関心を引き出し、知的な好奇心を高揚することで「学習」への意欲が高まり、これが学力の定着や向上に密接につながるため、「体験的な学習」を重視した、様々な教育活動を進めています。



ワールドフェスタ(多文化共生学習の1つで、アジアの国々の文化や遊びを体験する活動です)



米作り体験(5年生が校庭にある田んぼで田植え・稲刈り・わら細工をする体験活動です)



毎週木曜日の20分休みは、キッズタイムです。1～6年生のたてわり班で楽しく遊びます。



防災学習(消防署・地域の方から教えてもらい、保護者との引き渡し訓練も行っています)